

# 敬老パスQ & A特集 利用制限は設けずに、私鉄への拡大を！

## 市議団の「敬老パス特集」に大反響

年末に市民向けに全戸配布した共産党名古屋市議団の「敬老パス特集」チラシが、大きな反響を呼び、連日電話が寄せられています。



私鉄への利用拡大を歓迎する声の一方で、利用回数上限への不安の声も多数寄せられています。

共産党名古屋市議団は、利用回数制限なしに私鉄への利用拡大ができると訴えています。

以下、寄せられた質問・要望にお答えします。

### 年間700回の利用限度の影響は？

**Q1** 700回も利用していないので、自分には影響ない。制限があっても関係ない。

**A1.** 今は、利用頻度が少なくても、いつ多回数利用する状況になるか誰もわかりません。誰でも必要な時に心配なく利用できる制度であることが重要です。

**Aさん**

「これまでは敬老パスをあまり使っていなかったが、夫が急に入院し、施設入所となり、今はほぼ毎日面会に行っています。行きは市バスと地下鉄、帰りは地下鉄と私鉄と市バスを利用しています。利用制限なんて関係ないと思っていたけど、お金がかかるようになれば、今まで通りに出かけられなくなると思います」

**Q2.** 利用回数に個人差があるのは問題では？

**A2** 私鉄沿線地域では、敬老パスの利用者が少ない実情がありました。今回私鉄に利用拡大することで、地域による利用差は解消されます。さらに民間バスへ拡大、市バス路線の改善で、どの地域に住んでいても敬老パスが利用できるようにしたいと思います。

**Bさん**

「私鉄利用拡大で敬老パスが使えるのはうれしい。自分が必要な時だけ利用するので、たくさん利用しないと損だとは思わない」

## 私鉄拡大の財源はあるのか？

**Q3** 私鉄拡大をすれば税金がさらに必要になる。財源がないのでは？

**A3** 名古屋市は、事業費に上限を設ける方針を作りました(2016年)。上限は、2003年度事業費が最高だった138億円(2003年)の税投入額としました。当時は利用者負担金制度の始まる前でしたので、当時の税投入を現在に換算すれば、145億円。今後10年間(2031年まで)を見ても、税投入額は145億円を超えることはありません(健康福祉局長答弁)

**Cさん**

「2004年から始まった利用者負担で、名古屋市の支出は減ったと思う。高齢者に負担を求めたのだから、頑張って今の制度は続けてほしい」

### 「利用制限」が社会参加の抑制に

**Q4** 全国で最も優れた名古屋の「敬老パス」～高齢者の社会参加が地域を支えているとは？

**A4.** 敬老パスが自由に利用できるからこそ、積極的なボランティア活動、生涯学習の機会、友人との交流、家族の介護やお孫さんの世話など、地域を支える大切な役割を果たしています。利用制限は、こうした活動を制約することになってしまいます。

**Dさん**

「障害のある人の見守り支援のボランティアをしています。週3回往復6回の今の活動も交通費がかかるようになれば、今まで通り続けることができないと思います」

**Eさん**

「健康のために70歳から、毎朝敬老パスを使って、都市公園のラジオ体操に参加しています。体操で仲間と会うことが自分の生きがい。友人ができ、休む人がいると心配しあえる仲間ができました。健康を維持してなるべく介護のお世話にならないようにしたい。しかし、お金がかかれば、とても毎日いけません」

敬老パスの私鉄への拡大、利用回数制限などについて、引き続きご意見をお寄せください。